

関心が地域をつくる
『クラウドファンディング』で見えた希望と未来

元せいよ地域おこし協力隊 藤川 朋宏
卯之町パールOTTO店主



はじめに

私は、18歳で大学進学を機に上京し、約13年間東京で暮らしていました。東京では、ダイニングバー、イタリアンレストランと、10年以上飲食業をしてきました。

東日本大震災後、自身の結婚を機に地元である愛媛県へ帰ることを考え始め、地元のために役立たいことを考えることはなかったか、とも考えるようになりました。

そんなある日、西予市が「地域おこし協力隊」を募集していることを知り、西予市のHPを確認すると、なんと締め切りの2日前。なにかの運命だと信じ、迷わず応募をしました。

そして、2015年4月より「せいよ地域おこし協力隊」としてUターンで着任しました。

喫茶春名との出会い

西予市宇和町、この地には日本伝統の弁柄色に漂う重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）があります。

江戸中期から昭和初期まで宇和島藩の在郷町・宿場町として栄え、商家が立ち並



改装前

び、白壁、うだつ、はじとみ、出格子など伝統的な建築様式なども残っており、付近には、伝統的木造建築の中に洋風のアプローチ型の窓をとり入れたモダン建築が特徴の開明学校、江戸時代後期の蘭学者である高野長英の隠れ家などもあり、当時の雰囲気を感じさせる地区です。



町並み

着任後、以前と比べて静かに感じたこの街で、最初に目にしたのが重伝建地区にあり、空き店舗となっていた「喫茶春名」でした。

ひっそりとたたずむ「喫茶春名」は、その中においても一際美しいたたずまいをしているように見えました。まさに、一目惚れに似た感覚でした。

お店を営まれていたおばあちゃん、体調を崩して10年以上休店状態だと聞き、「このまま老朽化していく

姿は見たくない」と、私はそう強く思いました。

また、重伝建地区では現在空き家が増えており、観光客や地元住民がお茶を飲んで休む場所もほとんどありません。

『地域の風情を残しながら、来ていただく皆さんに温かいお茶を』というおばあちゃんの意味を継ぎ、良き日本の残された伝統を大切にしながら、昔のように人の集える、賑わいのある場所として、重伝建地区のコミュニティをこの「喫茶春名」で作っていきたくと考えました。そして私は、「喫茶春名」を新たにcafé barとして活用することに決めました。

これまでの経験を活かし、いろいろな角度から物事を見つめ、風情ある文化を継承発展させたいと思い始めたのです。

地域課題とコンセプト

古きを大切に、新しきを取り入れる「不易流行」をコンセプトに、衰退する地域の伝統を大切に、人と人を繋ぎたいと考え、この「喫茶春名」を核として地域の抱える課題をできる限り解決したいと考えました。

